

事後評価報告書(日本－スウェーデン研究交流)

1. 研究課題名:「マイクロ流体ガン診断プラットフォーム」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人東京大学生産技術研究所 教授 藤井 輝夫

2-2. 相手側研究代表者:ルンド大学計測技術・産業電気工学部門 教授 Laurell Thomas

3. 総合評価: (B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

血中循環腫瘍細胞(CTC: Circulating Tumor Cell)の捕捉と分析に関する新しい手法の可能性に関し検討が加えられたことは意義がある。ただ、最終的にガン細胞を分離する機能と単一細胞レベルで解析する機能を統合するところまで実施することができなかつた点が残念である。また、国際会議のプロシーディングでの共同発表に留まっているようであり、是非とも共著論文の形で共同研究の足跡を残してほしいと考える。

(2)交流成果の評価について

日本側と相手国側の若手研究者や学生がそれぞれ相手国の研究室を訪問し、積極的にお互いが刺激を受ける研究環境が作られようとしたことは報告書から読み取れる。しかし、滞在期間は短く、突っ込んだ意見交換がなされるまでには至らなかつたのではないかと推測される。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本課題はいわゆる基礎的研究ではなく、実用化の目標を持つ技術開発的研究と推察される。それを考えると、研究チームに出口に詳しいメンバーを加えるのが望ましかつたし、特許出願など期間中の種々の共同研究としての運営管理体制もより強化すべきではなかつたかと感じる。